

投票所 20年で7000カ所減

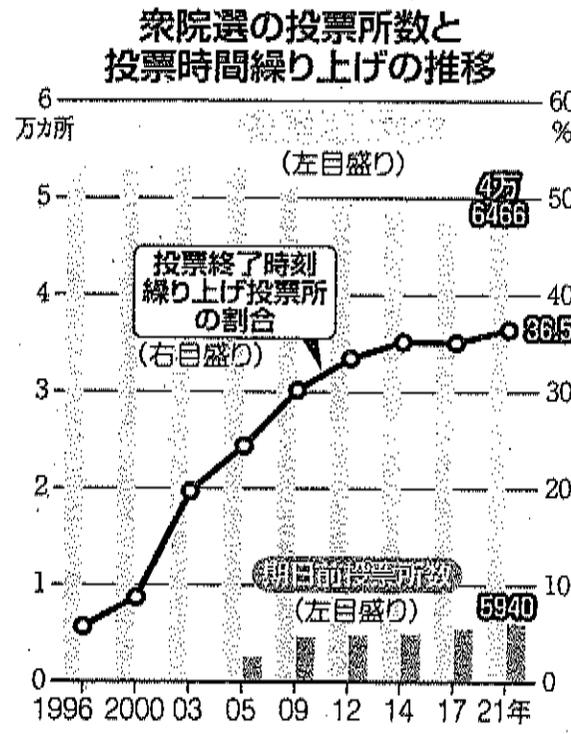
締め切り時間 36.5%繰り上げ

憲法で保障された選挙権を行使する場となる投票所の数が減り続けている。今回の衆院選では全国四万六千四百六十六カ所。二〇一七年の前回選から千二百七十五カ所(2.6%)、ピークの〇〇年から約七千カ所(13%)減った。午後八時の投票締め切り時間を繰り上げる投票所の割合も全体の36.5%に上った。投票所の減少が投票率の低下につながっているとの研究結果もある。識者は投票環境の充実に向けた対策強化を国に求めている。

(川田篤志)

総務省によると、〇〇年もあり、投票所の効率運営
衆院選での投票所数は約五
万三千カ所。過疎化や市町
村合併に伴う投票所の統廃
合に加え、高齢化で投票所
管理者や立会人の確保が難
しくなったことが減少の主
な理由だ。

この二十五年で投票所が
約百カ所減った群馬県は
「職員らのマンパワー不足
着を理由に繰り上げが拡大



「期日前定着」理由 識者「投票率低下の一因」指摘

しているのが実態だ。期日
前投票所は五千九百四十カ
所で、前回衆院選から五百
五十六カ所(10.3%)増
え過去最多だった。

一方で、商業施設などで
その自治体の有権者が誰で
も投票できる「共通投票
所」は、茨城、愛知、岐阜
など十一道県で計四十八カ
所。前回の四道県計七カ所
から大幅に増えたが、定着
したとまでは言えない。

大阪大の松林哲也教授
(政治学)は、〇五年、〇
九年、一二年の計三回の衆
院選で、投票所数や投票時
間と投票率の相関関係を調
査。有権者一人当たりの
投票所が一カ所減ると投票
率は0.17%下落するとの
結論を導き出した。投票時
間と投票率の関係はさらに
調査が必要という。

松林氏は「今の制度は、
(選挙の投票日に投票所で
投票することが原則の)
『投票日当日投票所投票主
義』。現実の社会に合っ
ていない」と指摘。期日前投
票の充実、インターネット
投票の実現など「投票のあ
り方を考え直す時期だ」と
話す。